



道総研

殺そ剤の空中散布によるエゾヤチネズミの駆除効果

林業試験場 保護種苗部 保護グループ 南野一博

研究の背景・目的

エゾヤチネズミによる林木被害は林業上の大きな障害になることから、殺そ剤による野ネズミ被害防除が行われており、防除面積の約9割はヘリコプターを用いた空中散布により実施されています。

一方で、野ネズミ被害は依然として発生していることから、野ネズミ防除事業における殺そ剤の空中散布の状況と野ネズミの駆除効果を確認しました。

研究の内容・成果

1. 殺そ剤の散布量調査

2019年植栽のカラマツ人工林に直径80cmの円錐形のトラップ（0.5m²）を設置し、ヘリコプターから落下してきた殺そ剤の数をカウントしました。



トラップの設置

空中散布

殺そ剤をカウント

殺そ剤散布日：2021年10月21日、2022年10月22日

落下量の想定値：民有林の薬剤散布基準量は0.8kg/haですが、造林地の周辺約30～40mにも散布されるため実際の造林地内への落下量は0.5kg/ha程度*になると予測されます。

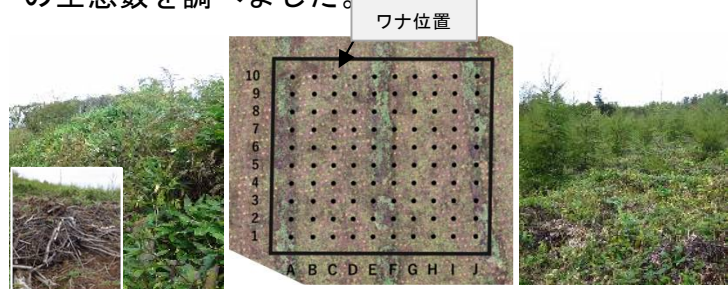
表1 空中散布による殺そ剤の落下状況

	2021年	2022年
トラップ台数	40	60
殺そ剤の落下数（粒）	2	5
100m ² あたりの落下数（粒）	10	16.7
ha当たり落下量（kg）	0.17	0.27

実際の落下量は想定値*を下回っていました。
“まきムラ”や対象範囲外への散布が発生している可能性があります。

2. 野ネズミ捕獲調査

2019年植栽のカラマツ人工林に生け捕りワナを8m間隔で10行×10列計100台設置し、殺そ剤散布前後の各3日間、指切り法による標識再捕獲を行い、エゾヤチネズミの生息数を調べました。

枝条集積地
(A,E,F,J列)

調査地

植栽地
(B-D,G-I列)

捕獲数
(頭/100ワナ・日)

好適な環境

隠場がない

枝条内

植栽地

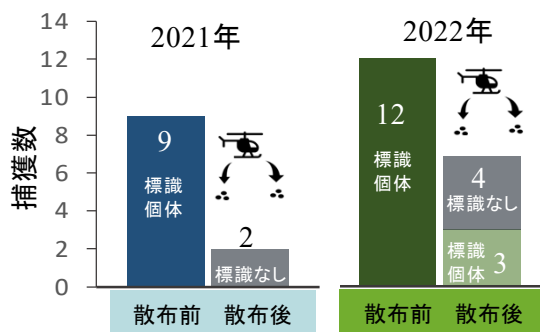


図2 殺そ剤散布前後のエゾヤチネズミの捕獲数

標識個体の再捕獲率は0～25%でした。
両年とも殺そ剤による駆除効果が確認されました。

まとめ

- ・殺そ剤の落下量は想定を下回ったものの、殺そ剤による一定の駆除効果が認められました。
- ・エゾヤチネズミは枝条内に偏って生息しており、数が多い年には、駆除しきれずに被害が発生する可能性があります。

今後の展開

殺そ剤に頼らない野ネズミ被害防除方法についても検討します。

図1 造林地におけるエゾヤチネズミの捕獲状況

野ネズミは枝条内に偏って生息していました。
植栽地では下刈りが実施されており、野ネズミが生息しづらい環境であったと考えられます。